

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

| | |
|------|--|
| 対象部局 | 経営戦略研究科・経営戦略専攻 |
| 大項目 | 4 教員組織 |
| 中項目 | |
| 小項目 | 4.0.1 教員組織 |
| 要素 | 教育課程における専任の教員を必要と認められる数を任用しているか。 教員組織の構成において、「教育研究上の目的」の達成のために必要と認められる授業科目に必要なかつ十分な専任の教授又は准教授を任用しているか。 教員組織の構成において、「教育研究上の目的」の達成のために必要と認められる実務家教員を任用しているか。 教員組織の構成において、「教育研究上の目的」の達成のために必要と認められる専任の教員と非専任の教員との割合に配慮しているか。 教員組織の構成において、教員の年齢構成の割合、男性・女性教員の比率及び外国人教員の任用等教員の多様性に配慮しているか。 開講授業科目について高度の教育上の指導能力があると認められる下記の各号に該当する専任の教員を、専攻ごとに「文部科学大臣が別に定める数」(平成15年文部科学省告示第53号第1条。以下同じ。)を置いているか。 1) 専攻分野について、教育上又は研究上の業績を有する者 2) 専攻分野について、高度の技術・技能を有する者 3) 専攻分野について、特に優れた知識及び経験を有する者 |
| 小項目 | 4.0.2 教員の資格 |
| 要素 | 教員の任用及び昇任に関する規則及び基準を定めているか。 教員の任用及び昇任に関する審査プロセスを明確に定め、客観的な審査をしているか。 最近5年間の教育研究業績等により教員の教育上の指導能力を評価する組織的な取組をしているか。 専任教員の最近5年間の教育研究業績の資料を開示しているか。 実務家教員の実務経験について定期的に評価を行い、授業科目担当の割り当てを適切に行っているか。 |
| 小項目 | 4.0.3 教員に対する教育研究支援 |
| 要素 | 教員の教育研究活動の推進と教員の授業担当時間数との関係について、適切な範囲内にとどめるように配慮しているか。 教員の教育研究活動の推進に必要な研究費獲得の支援体制を整備しているか。 教員の教育研究活動の推進に必要な事務職員及び技術職員等の支援体制を整備しているか。 教員の教育研究活動の推進に必要な教育課程の活性化を図る適切な措置を講じているか。 |
| 小項目 | 4.0.4 教員の任務 |
| 要素 | 教員は、自己点検評価及び学生の授業評価の結果に基づいて、授業の内容、使用教材及び授業方法等の改善を絶えず行っているか。 教員は、学習目標の達成のために、先端的な高度専門的知識や技能の教授に努めているか。 教員は、学習目標の達成のために、オフィスアワーの設定及び電子媒体等を通じて学生との対話を積極的に図り、学生の学習指導に努めているか。 |

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

| 2009年度に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗状況(達成度)評価 | | | | |
|---|--|-------------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| 1. Improve the educational standard by activating the FD activities. FD活動の活発化による教育水準の向上 | →Improve FD activities. (Number of guest speakers and times for inviting them) FD活動の充実(回数及びゲスト・スピーカーの人数) | B | B | B | B | B |
| 2. Further improvements in the level of student satisfaction on the quality of classes offered. (授業の質に関して、学生の満足度を向上。) | →The level of student satisfaction surveyed every quarter (score on Q.13; "Overall, you are satisfied with the course, and recommend it to your fellow students," averaged over all classes). (クォーター毎の学生の満足度調査(Q13の「コースに満足しているか、知り合いに勧めるか」のスコア、全クラスの平均)) | B | B | B | B | B |
| 3. Increase in the number of full-time tenured faculty members. (任期の定めのない専任教員の数を増やす。) | →% of full-time tenured faculty members over allocated positions (6). (IMC教員の定員枠に対する任期の定めのない専任教員の比率。) | C | B | B | A | A |
| 4. Promote research by acquiring the out-of-university research fund. 外部研究資金の確保による研究推進 | →Increase 1.5 times of out-of-university research fund. 外部研究資金の金額を1.5倍に増加させる | C | C | B | B | A |

☆

| 2010年度以降に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
|-------------------|-----------|------|------|------|------|------|
| | → | | | | | |
| | → | | | | | |

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

| | | | |
|-----|---|--|---|
| 目標1 | B | <p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 毎年FD研修会を行い、教育方法・水準などについて検討している。 具体的には、必修科目のあり方、複数の教員で複数クラス開講する授業科目のテキスト統一化、授業運営ノウハウの共通化のメリット・デメリット、等について議論を行ってきている。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 具体的な結果は、まだ出ていない状態であるが、授業科目の運営をより合理的かつ効果的に実施することを目指して案を出しあっている状況である。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 特に「課題研究基礎」など、テキストや授業運営のノウハウをある程度共通化できる授業科目について、これまで議論してきたことを具体的に授業運営に反映していく。</p> <p>その他</p> | ☆ |
| 目標2 | B | <p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 「学生の手引き」に各プログラムの概要を載せるなど、カリキュラムに対する学生の理解向上に努めた。また、毎年FD研修会を行い、教授法の研究にも努めている。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 授業評価アンケートの満足度に関する項目(5段階)で毎年4.25以上を保っており、学生の満足度は高いと考える。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 継続してFD研修会を通じて教育方法の向上についての学びを継続するとともに、時代のニーズ、学生のニーズを把握しながら、随時授業内容に反映していく。</p> <p>その他</p> | ☆ |
| 目標3 | A | <p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 任期制教員2名を専任教員として採用し、また退職した専任教員3名の枠についても採用(うち2名公募)し、専任教員の比率を維持している。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2009年度以降、退職者の補充を推進し、5名の専任教員を採用し、2014年4月時点で16名が在籍している。国際経営コースにおいては、2009年度には専任教員が3名だったが、6名にまで増えた。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 専門職大学院設置基準で求められる任期の定めのない教員数を十分に上回る程度確保できていることから、目標は達成できたものとする。</p> <p>その他</p> | ☆ |

| | | | |
|-----|---|---|---|
| 目標4 | A | Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 各教員が文部科学省の科学研究費等、各種研究資金に積極的に申請している。 | ☆ |
| | | Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 文部科学省の科学研究費は、2009年度1027万円から2013年度1586万円と増加し、1.54倍に達した。 | ☆ |
| | | Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後も継続的に外部資金獲得を積極的に推進する。 | ☆ |
| | | その他 | ☆ |
| 備考 | | | ☆ |

《評価指標データ》

| 【経営戦略研究科】 | | 単位 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 備考 | |
|-----------|---------------------|-----|------|------|------|------|------|-----|---------------|
| 指標1 | 専任教員1人あたりの学生数 (ST比) | 人 | 8.8 | 8.3 | 7.0 | 5.8 | 5.4 | | |
| 指標2 | 教員組織における女性教員の比率 | % | 12.5 | 15.4 | 16.0 | 17.9 | 14.3 | | |
| 指標3 | 本学出身の専任教員の構成比率 | % | 23.8 | 32.6 | 36.0 | 32.1 | 32.1 | | |
| 指標4 | 専任教員に占める教授の比率 | % | 71.4 | 69.8 | 74.4 | 73.8 | 72.7 | | |
| 指標5 | 専任教員に占める実務家教員の比率 | % | 59.1 | 63.6 | 41.8 | 33.3 | 36.3 | | |
| 指標6 | 専任教員の担当授業時間(平均) | 教授 | 時間 | 7.5 | 9.2 | 9.6 | 9.6 | 9.4 | 45分をもって1時間に換算 |
| | | 准教授 | 時間 | 7.0 | 8.5 | 8.5 | 9.4 | 8.1 | |
| | | 講師 | 時間 | — | — | — | — | — | |
| | | 助教 | 時間 | — | 8.0 | 8.0 | 8.0 | 4.0 | |